



ＪＩＣＡ研修で雷別国有林を見学

令和7年8月26日、雷別地区自然再生事業地で、ＪＩＣＡによる「地域振興に寄与するエコツーリズム等の持続可能な湿地資源の利用」研修が行われました。

当日は中央アジアから9名の研修員とＪＩＣＡ関係者が訪れ、当センターが事業説明等を行いました。

まず、所長から、雷別地区自然再生事業の背景や目的、事業方針などを説明しました。

次に、雷別地区の郷土樹種の特徴、植栽木を保護するためのツリーシエルトの効果や取外し時期、今



▽説明を聞く様子

後の方針等について説明しました。

「苗木はどのように植えているのですか。」「ツリーシエルトを被覆することで植栽木への悪い影響はありませんか。」等の質問がありました。「タジキスタンでは森林を増やす取組を行っているので、ツリーシエルトを導入したい。」といったお話もありました。

その後、事業地内を散策し、立枯れしたトドマツや植栽木を観察し、写真や動画に収めていました。このほか、バッタを見つけて「バッタ！」と呼んでおられて、バッタは共通言語なのか？と驚きました。



▽自然再生事業地を見学する様子

「夏の学校林活動」開催！

令和7年8月27日、標茶町立中茶安別小中学校学校林において、「夏の学校林活動」を行いました。

今年は、低学年（小1～小4）・高学年（小5～中3）グループに分かれて活動を行いました。

始めに「カラマツ・トドマツ」の講話をしてその後、学校林へ移動し各グループでの活動に移りました。高学年グループが、カラマツの枝を高枝切りで採取、低学年グループがマツボックリを採取しました。

高学年グループは、初めての高枝切りノコと悪戦苦闘する中で切断



▽高枝切りノコで作業



▽枝切作業

できた時は歓声を上げていました。低学年グループは、切断した枝からマツボックリを集めました。集めたものを乾燥させて、12月の「ミニツリー制作」で使用します。終了後に生徒代表から、「枝を切ることが、学校林の木々の成長につながることを知り、私たちも、今回の活動を通して、そのことに関われたことは、とても素晴らしいことだと思いました。これからも成長していくことを楽しみにしています。」とのお礼の言葉を頂きました。心地よい気温で実施できたことにセンター職員もほっとしました。



▽木エクラフトの様子

カミパラで「木エクラフト」
令和7年9月6・7日、白糠町のハミンググロッドで、第33回カミングパラダイスが開催されました。この催しは、白糠駅前の南通り商店街を歩行者天国にして行われ、町内店舗を中心に露店等の出店、ちびっこ縁日等、大人から子どもまで楽しめるイベントです。当センターは、緑化推進委員会の木育の取組と連携し、7日に「木エクラフトづくり・フォトフレームづくり」を行いました。当日は、天候が心配されましたが、ブースに訪れた方々は、楽しそ



▽フォトフレームの作品

うに木エクラフトに取組んでいました。子どもたちは、好きな動物をマツボックリ等で作ったり、滑り台や飛行機を作ったりしていました。大人の方もフォトフレームの飾り付けを楽しんでいました。個性的な作品やかわいい飾り付け等、素敵な作品がたくさんありました。秋の木育イベントとして、多くの方々が木エクラフトを楽しむ姿があり、雨が上がったお昼以降は特に盛り上がり 있었습니다。このほか、「なつかしひろば」において、竹馬やコマ等の木にちなんだ遊びもあり、賑わっていました。



林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp

【URL】https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

国民の森林・国有林

当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林を主な活動区域として、フィールドの特徴を踏まえて、教育関係者、ボランティア団体・地域住民、企業、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

